

2020年度 自己点検・評価シート

基準7	学生支援
-----	------

\*各組織における新たな目標または、「2019年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。  
\*2019年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2020年度期首時点)	①2020年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2020年度の取り組みとその成果 ②2020年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
② ●学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか ○学生の「修学」に関する支援・学習に関する相談体制の整備	①現状説明 【体制】 ◆学習センターでは、専任教員10人が当番制で週1コマずつ滞在し、学習相談に対応している。新型コロナウイルス感染症拡大防止により、2020年度1期はZoomを利用したWEB学習相談を実施している。 ◆学習センターでは、英語学習アドバイザーが毎日10:40~16:50まで待機しており、英語や留学に関する相談に対応している。(1日10コマ)新型コロナウイルス感染症拡大防止により、2020年度1期はZoomを利用したWEB英語相談(1日7コマ)を実施している。 【利用促進】 ◆相談体制についての告知を、履修登録期間の学習相談会場でのチラシ配布、月刊「学習センターだより」、看板、パンフレットスタンド、学生ポータルサイト、電子掲示板等で行っている。 【過年度実績】 ◆学習相談 2019年度228件、2018年度105件 ◆英語学習カウンセリング 2019年度1,184件、2018年度1,177件 ②長所・特色 ◆相談員は各教授会から1名以上出ている。 ◆相談員はオープンな自習スペースに滞在しているため、個別の研究室を訪ねることなく、気軽に相談できる。新型コロナウイルス感染症拡大防止により、2020年度1期はZoomを利用したWEB学習相談を実施している。 ◆学生の希望や必要に応じて、ブース形式の個別相談スペースを利用して相談することができる。 ③問題点 ◆学習面の見直しの必要な学生が必ずしも自主的に学習センターに足を運んで、あるいはWEBでの学習相談を利用するわけではない。	①2020年度以降の達成目標 (a)学習センターの主な機能である自習・相談・講座・学習教材提供について、新型コロナウイルス感染症拡大を受けてそれぞれの項目において、オンラインを活用して行う。 (b)対面授業開始後に学習センター業務がスムーズに行えるように準備する。 ②達成度を測るための客観的な指標 (a)2期対面授業開始後の教員による学習相談について、年間130件以上。(2019年度2期 学習相談件数138件、年間228件) (b)2期対面授業開始後の英語学習相談について、年間600件以上。(2019年度2期 英語学習相談件数606件、年間1184件)	<①2020年度の取り組みとその成果> 新型コロナウイルス感染症拡大防止により、2020年度1期はZoomを利用したWEB学習相談を実施し、2020年度2期はZoomか対面のどちらかを選んで学習相談を実施した。学習相談対応件数63件(2019年度228件)、英語学習相談対応件数440件(2019年度1,184件)。 <②2020年度の取り組み後の問題点(課題)> 学習相談件数 2020年度はTKUポータルでの呼びかけを1期から定期的に行い、学習相談促進を行ったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止により、授業がオンラインになり、学習センターに来訪する学生数が減ったため、相談件数は昨年度に比べ大きく下回った。63件(2019年度228件)	A	◆「学習センター利用統計(2020年度).xlsx【月次報告】」【資料1-1】、「学習センター利用統計(2019年度).xlsx【参考】前年度データ」【資料1-2】 ◆「英語学習相談者リスト2020年度」、「英語学習相談者リスト2019年度」【個人情報を含むためデータにて学習センター保管】 ◆「月別集計表」【大量であるため学習センター保管】	助言等は特にありません。引き続き改善・向上に努めてください。
①① ●学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか ○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	①現状説明 ◆毎日の自習者・窓口相談者・学習相談者・講座参加者・見学者の数を記録し、毎月統計をまとめている。 ◆過去の参加実績等をもとに講座やイベント等を企画し、学習センター運営委員会にて検討の上、実施している。 ◆講座やイベント実施時は毎回、参加者にアンケート調査を行い、満足度や感想・要望等を確認し、その後の企画の参考に行っている(2018年度及び2019年度平均回収率92%)。◆毎年1月頃、学習センター利用学生から「新入生へのメッセージ」として、学習センターの利用法を書いてもらい、学習センターの利用実態に関する情報を集めている。◆毎年3月、「学習センター全体懇談会」を開催し、学習センターの活動に関わる教職員及び英語学習アドバイザー、常連学生に参加してもらい、1年間の総括を行っている。2019年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止。 ◆毎年、前年度の活動実績を「学習センター活動報告」にまとめ、冊子及び電子データを学内に配付している。 ◆1年間の学習センターの活動について、翌年度の学習センター運営委員会及び事務局会議にて報告している。 ②長所・特色 ◆講座やイベントの参加者アンケートは無記名であるため、正直な意見や感想を集めやすい。 ◆日頃から多様な学生に直接接している教員運営委員や英語学習アドバイザーから、学生の学習支援ニーズに関する情報を得ることが可能である。 ③問題点 ◆学習センターに関心のない学生は、学習センターを利用しないため、新たな意見等を集めることが難しい。	①2020年度以降の達成目標 (a)講座アンケートの回収率を一定以上に保つ。 (b)アンケートの満足度回答「はい」及び「大体」の合計の割合を一定以上に保つ。 (c)学習センターの活動に関わる教職員や利用学生の意見等から、学習支援のニーズを探る。 ②達成度を測るための客観的な指標 (a)講座アンケート年間平均回収率80%以上。 (b)満足度回答「はい」及び「大体」の合計平均90%以上。 (c)学習センターの活動に関わる教職員や利用学生の意見等をもとに、学習支援の改善を実施する。	<①2020年度の取り組みとその成果> ◆新型コロナウイルス感染症拡大防止により、2020年度はZoomを利用したWEB講座を実施し、1週間後に録画講座をTKUポータルで配信することで、多くの学生の視聴があった。講座参加者数555名、録画講座再生回数2867件(2021年1月末現在)(2019年度1217名) ◆実施講座104回(録画講座含む)(2019年度97回)、講座アンケート回収率52%(WEBLIVE講座のみアンケート実施)(2019年度92%)、満足度回答「はい」及び「大体」の合計100%(2019年度99%)。 ◆学生のコミュニケーション力向上に関する講座として、「メールのマナー講座」、「英語で雑談してみよう」を実施した。 <②2020年度の取り組み後の問題点(課題)> ◆新型コロナウイルス感染症拡大防止により、2020年度はZoomを利用したWEB講座を実施し、アンケートはGoogleフォームを利用した。アンケート提出後に退出するよう呼びかけたが、Zoomは自由に入出力ができるため、アンケート回収が難しく、回収率は昨年度を大きく下回った。 ◆新型コロナウイルス感染症拡大防止により、2020年度はZoomを利用したWEB講座を実施したが、2021年度以降は、対面授業、WEB講座、録画講座を併用する等、学生が参加しやすい実施方法を検討する必要がある。 ◆利用学生や教員運営委員及び英語学習アドバイザーから、学生の学習支援ニーズに関する情報を得るためには、日頃から意識して情報収集を行う必要がある。	A	◆各講座のアンケート【大量であるため学習センター保管】 ◆「学習センターイベント報告(2020年度)」【資料2-1、2-2】、「学習センターイベント報告(2019年度)」【参考】前年度データ【資料2-3】 ◆KIHACHIRO文庫貸出簿【個人情報を含むためデータにて学習センター保管】	定期的な点検・評価の観点からは、「1年間の学習センターの活動」などは、学習センター運営委員会の上位の会議体もしくは、関連する別会議体への報告し、意見をもらう体制を確立してください。

2020年度 自己点検・評価シート

基準11 教学ビジョン(4つのクオリティ)

\*各組織における新たな目標または、「2019年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。  
\*2019年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2020年度期首時点)	①2020年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2020年度の取り組みとその成果 ②2020年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
<p>④ ●教学ビジョンの実現に向け、サポート・クオリティを向上させる取り組みが行われているか ○各組織の長所・特色となるような取り組みの実施</p>	<p>①現状説明 ◆学習センターでは、聴覚障がいのある学生のためのノートテイクの配置とサポートを行っている。 ◆学習センターの窓口は、学内の「なんでも相談窓口」として、外国人留学生を含む、学部学生からの各種相談に対応している。新型コロナウイルス感染症拡大防止により、1期オンライン授業の情報保障は職員による文字起こし業務を行っている。 ◆学習センターでは、専任教員相談員10人が当番制で、外国人留学生を含む、学部学生からの学習相談に対応している。新型コロナウイルス感染症拡大防止により、2020年度1期はZoomを利用したWEB学習相談を実施している。 ◆学習センターは、学生時代に身に付けるべき基礎力や学習技能等を紹介した初年次用教材を作成し、新入生全員に配付している。</p> <p>②長所・特色 ◆学習センターは、静かに自習できるスペースのほか、会話のできる学習スペースを提供しており、外国人留学生とその学習チューター(本学学部生)の相談にも活用されている。新型コロナウイルス感染症拡大防止により、2020年度1期は自習・学習スペースの提供ができず、Web対応とせざるを得ない。</p> <p>③問題点 ◆ノートテイクの人材不足により、理想的な配置(各科目3人)が困難な場合がある。</p>	<p>①2020年度以降の達成目標 (a)情報保障の必要な授業にノートテイクを配置する。新型コロナウイルス感染症拡大防止により、1期オンライン授業の情報保障は職員による文字起こし業務を行う。 (b)初年次生用教材を改訂する。</p> <p>②達成度を測るための客観的な指標 (a)情報保障の必要な授業にノートテイクを3人ずつ配置する。新型コロナウイルス感染症拡大防止により、1期オンライン授業の情報保障について、遅延なく行えるように準備し、作業する。同時に音声ソフト、字幕化について検討する。 (b)2021年度及び2022年度新入生用の「TKUベーシックカブックゼロ(DVD)」を改訂し、発行する。</p>	<p>&lt;①2020年度の取り組みとその成果&gt; ◆聴覚障がい学生支援 聴覚障がい学生1名。新型コロナウイルス感染症拡大防止により、授業がオンラインになったため、ノートテイクは配置せず、パソコンテイクを学習センター職員(専任職員1名、臨時職員3名)が対応した。1期4科目、2期3科目</p> <p>◆オンライン授業でのストレス解消に役立つ講座として、1期に「眠りのためのリラックス法」参加者数16名、WEB講座再生回数198件、2期に「オンライン疲れさんのためのリラックス法」参加者数2名、WEB講座再生回数45件(2021年1月末現在)を実施した。</p> <p>◆初年次生用教材「TKUベーシックカブックゼロ(DVD)」を改訂した。</p> <p>◆英語学習アドバイザーによる講座では、新型コロナウイルス感染症対策防止により、オンラインの状況下にあっても学生同士が繋がることを意図し、コトパティオとランチタイム講座をコラボした。「洋楽de英語 歌で発音&amp;リスニング コトパティオGeoffがギターと歌で主導!」、「ハッピークリスマス~皆が良く知るアメリカンポップスを歌おう!」</p> <p>&lt;②2020年度の取り組み後の問題点(課題)&gt; 2021年度は対面授業とオンライン授業の併用が予定されているので、ノートテイクを募集し、ノートテイクとパソコンテイクに対応してもらうことにしたい。パソコンテイクの場合は、授業データの取扱いについて確認が必要となる。(実際の授業日前に授業内容やデータを学生が取扱うことについて)募集はボランティアサークルへの呼びかけ等を行い、ボランティア活動の一環として聴覚障がい学生支援を取り入れてもらうことを提案したい。現段階では2021年度に支援対象学生がいるか分からないが、ノートテイクの人材不足により、理想的な配置が困難になる可能性がある。</p>	<p>A</p>	<p>◆「学習センターイベント報告(2020年度)」【資料2】</p>	<p>2020年度事務組織の再編が行われたことから教学支援部としての図書館と協力体制をとり、新たな利用者拡大を図ってください。</p>